

## 「ベトナム国家大学ハノイ校サマースクール参加報告書」

京都大学大学院文学研究科修士1年 陳思遐

私は2017/9/10から9/24までベトナム国家大学ハノイ校の外国語大学 (ULIS) と人文社会科学大学 (USSH) に短期留学した。留学に行く前はさまざまな点について心配だったが、この二週間は非常に貴重な経験になった。

ベトナムに行くまで、私の海外体験は日本のみだった。日本で一年半留学していたが、他の国に行ったことはなかった。ベトナムと言えば、私の頭に浮かぶのは、昔見たマルグリット・デュラスの自伝的小説をもとにした映画『ラマン』のことだった。この映画を見た時にベトナムの独特な文化に惹かれたのを覚えている。しかし、ベトナム語が話せないの、初めて言葉が通じない国に行くことになるのはやや不安だった。渡航前、このプログラムのために、10時間のベトナム語学習の授業が実施された。そのおかげで、簡単な会話ができて、諸々の面で助かった。しかしながら、ベトナム語の発音はとても難しく、簡単な文が聞き取れたとしても、自分の言ったことが相手に通じない時が多く、ベトナムの学生達に色々とお世話になった。ベトナムの学生達は、交流するうえで全く問題のない日本語を話し、いつも通訳してくれた。

ベトナム滞在中、ベトナム語の授業のみならず、日本語授業の見学の機会もあった。ベトナムの学生達と共に授業を受けたり、共に日本語の会話の練習をしたりすることは楽しかった。学生のみならず、先生達もとても元気であるというのが印象的だった。

ベトナムはグローバル化が進むにつれ、近年、観光業の発達と外国企業のベトナムへの進出などが原因となって外国語の需要が高まっている。特に、韓国語と日本語は人気があるようだ。この二週間のプログラムで接したベトナムの学生から、日本に留学して日本語を学習し、就職活動に活かす人も多いということを知った。ベトナムにおける日本語熱の高さを間近に肌で感じた。そのような事情もあってベトナムでは日本語専攻を多く設けているという。しかし、彼らにとって第二言語である日本語だけでは意思が通じない場合もあり、こちらの手なベトナム語で説明したり、英語で説明したりして、言語の重要さをつくづく感じさせられた。ベトナムの学生が日本語を話せるという事実がどれほど大事なことなのかということにも気づいた。もっとベトナム語を勉強しなければと思っている。

留学を終えた今、二週間という短い期間ではあったが、その中で語学力とコミュニケーション能力のみならず、行動力や忍耐力も得ることができた。これからも、もっと今回のような国際的な交流プログラムに参加し、これらの能力を養いたいと思う。そして、日本にいる間にもっといろいろな国の留学生と交流し、将来、ベトナム、日本、その他の国での留学経験を必ず活かしていきたいと考えている。